

燃料油 9/19

【千代田区＝東京】垣元亮も、自動車会社も、見油化（JX系）本社千代田区麹町・垣見佐右衛門社長）垣見裕司専務は十三日、千代田区永田町の石油会館で開かれた都石商（荒木敬一理事長）経営部会（川端定則副理事長・部会長）経営情報新燃料委員会（高久光一委員長）講演会で「水素社会の到来と水素スタン



ドの本格普及を考える。元亮も、自動車会社も、見油化（JX系）本社千代田区麹町・垣見佐右衛門社長）垣見裕司専務は十三日、千代田区永田町の石油会館で開かれた都石商（荒木敬一理事長）経営部会（川端定則副理事長・部会長）経営情報新燃料委員会（高久光一委員長）講演会で「水素社会の到来と水素スタン

### 垣見専務が水素スタンド普及とSS対応都石で講演

国だった日本が貿易赤字へ、まさに日本の危機▽不足電気の代替はLNG火力が主。変動の多い太陽光や風力は、補完は出ないのは▽最近の水素陽光や風力は、補完は出ないのは▽最近の水素来ても代替は無理▽水素は、何から作るか。石油業界は、脱硫ナフサ、ガ

SSの急速充電器にもなる最近の水素社会への動き、それに気がついていないのは▽最近の水素自動車や水素スタンドの記事▽元亮の具体的な行動は、JX日鉱日石エネルギーは二カ所の実証店の

発表、二〇二二年度中に完成予定▽二〇一五年元売子会社を中心に百カ所確保へ向けて努力しているが▽自動車会社も覚悟を決める時▽水素スタンドビジネスモデル検討委、SS業界も覚悟が「早まる」と指摘。「SS業界はガソリン数量が大幅に減少することが見込まれ、水素社会の到来が予測できるが、SSが水素で生き残れるのは最大一部。九割のSSは従来型で勝ち残らなければならない。SS運営の将来像を分析し、覚悟して臨まなければいけない」と訴えた。

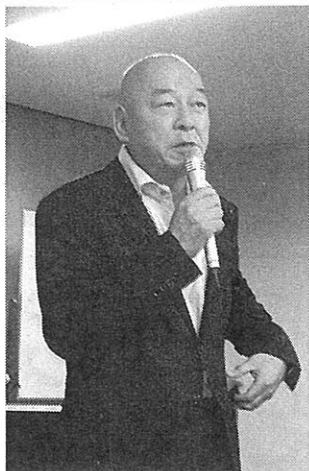
## 商協石都 経営部会が講演会開催 「水素」対応テーマに

【東京】都石協・商の経営部会は十三日、石油会館でトヨタ自動車技術統括部次世代推進グループ三谷和久主幹を招いて「水素社会の到来の意味と水素スタンドへの対応を考える」と題して講演会が開催された。

冒頭あいさつに立った荒木敬一理事長は「この先十年で燃料電池自動車走り回る時代がくるかもしれません。家庭も自

自動車も自家発電になる時代も考えられます」と今後の変化についていかなくはないと述べた。続いて開催趣旨を川端定則副理事長から「燃料電池車、水素ステーション（今後の問題）を正面でとらえなくてはならないと考えます。それを踏まえて、どうやって生き残るか。どんなことができるか。（この講演を

通じて）材料にし、これから考える土台にしたい」と開催の必要を述べた。垣見油化の垣見裕司代表取締役専務は「今年度中にもJXが名古屋市と海老名市のセルフSS内にガソリンアイランドと並んで水素計量機を設置を目指す。このことは単独の水素ステーションではない画期的なことではある。水素は石油業界に任せ



あいさつする荒木理事長



講演する垣見専務